

多元系化合物太陽電池開発の現状とこれからの展開

愛媛大学・松山大学（愛媛県松山市），
2012 年 9 月 11 日（火）10：00～18：00（予定）

企画の趣旨：

太陽光発電システムの世界の導入量は 2010 年には 16.6GW、2011 年には 20GW 以上に達すると言われています。特に、日本では昨年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を契機に、エネルギー政策の見直しが行われはじめ、再生可能エネルギーの主役として太陽光発電が社会的にも注目を集めるようになりました。その中で、中国を中心とした太陽電池新興生産国の急激な生産能力増強により、太陽電池モジュールの価格は大きく低下してきました。そのような環境の中で CIGS 太陽電池を中心とした化合物薄膜太陽電池や III-V 族化合物半導体を用いた超高効率太陽電池が次世代太陽電池として注目を集めています。本シンポジウムでは、このような多元系化合物太陽電池について、第一線で研究開発を行っている若手の研究者・技術者の方々に研究開発の現状について講演をしてもらい、聴衆を含めた活発な議論から今後の化合物太陽電池開発の方向性を探ってみたいと思います。

招待講演（15 分 2 件と 30 分 6 件）と一般公演（15 分 12 件）で構成の予定

招待講演の題目	講演時間	所属	講演者名
はじめに	15 分	龍谷大学	和田隆博
ワイドギャップ CIGS 系太陽電池	30 分	立命館大学	峯元高志
CIGS 太陽電池の欠陥評価	30 分	筑波大学	櫻井岳暁
第一原理計算から見た CIGS 太陽電池の製造プロセス	30 分	龍谷大学	前田 毅
CZTS 太陽電池モジュールの開発	30 分	ソーラーフロンティア	加藤拓也
集光型 InGaP/GaAs/InGaAs 逆積み 3 接合太陽電池の開発	30 分	シャープ	吉田篤史
化合物太陽電池の宇宙応用	30 分	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	今泉 充
おわりに	15 分	シャープ	高本達也